

令和7年度 自己評価計画書に関する最終報告

石川県立金沢辰巳丘高等学校

【重点目標1】多様な背景のある生徒一人ひとりがそれぞれの進路希望を実現できるようにするため、学習の個別最適化などの工夫によって自己肯定感や学習意欲を向上させ、自主・自律の精神を育む。					
具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策等
①きめの細かい個人面談と計画的なキャリア教育の実践により、個々の生徒が目標を明確化させ、有意義な高校生活を送ることができるよう支援する。また、学校行事や探究学習、部活動で得た達成感が将来の目標設定につながるよう工夫する。	進路指導課	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が計画的かつ効果的に機能し、生徒の進路目標が明確化している。	キャリア学習(将来の生き方や仕事について考え、必要となる力を伸ばす学習や活動)が自分の役に立っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	生徒によるアンケート(12月) 肯定的回答 86.6% 当てはまる 39.1% やや当てはまる 47.5% 【判定：B】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が6.0ポイント上昇した。今年度から面接週間を設定し、従来よりも個人面談の時間を確保できるようになったことで、より丁寧な指導や支援が行えているためではないかと考えられる。また、卒業生訪問や大学・企業見学など進路行事が前期に比べて多いことも影響していると考えられる。次年度も進路決定に必要な自己理解や主体的に取り組む姿勢の育成に努め、多様な進路に対応した説明会や学習の機会をさらに充実させる。
②生徒が学ぶことの楽しさを体感したり学ぶことの意義を実感したりできるような授業実践を目指し、全ての教員が授業改善に努める。また、引き続き、ICTを授業に効果的に活用するスキルを磨く。	教務課	【満足度指標】 生徒が学ぶ意義を理解し、楽しみながら授業に参加し、授業に集中して取り組んでいる。	授業に集中して取り組んでいると答える生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	生徒によるアンケート(12月) 肯定的回答 89.6% 当てはまる 45.0% やや当てはまる 44.6% 【判定：A】	前期に比べ肯定的回答の割合が4.3ポイント上昇した。個に応じた指導だけでなく、全体指導においても、生徒が達成感を持つ授業、きめ細やかな指導を実践している結果と考えられる。次年度も多様な生徒に対して継続的に細やかな指導ができる体制を維持し、否定的回答をした約10%の生徒たちに対する手立てを検討していく。
	教務課 情報課	【努力指標】 年間を通して、ICT機器の効果的な活用や指導方法の工夫を組み込んだ授業実践を継続的に行っている。	ICT機器の効果的な活用や指導方法の工夫を組み込んだ授業実践の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	教員によるアンケート(12月) 肯定的回答 84.6% 当てはまる 42.3% やや当てはまる 42.3% 【判定：B】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が8.8ポイント上昇した。今年度から指導方法全般を対象としたことと、GIGAスクール構想が次の段階に進んだことを教員間で共有できたことが改善に繋がったためと考えられる。また、各種研修や若プロを中心とした取組も、学習指導に対する教員一人ひとりの考え方を改善する刺激となっていた。次年度も発展的に継続させていく。
③生徒の学習状況を適切に評価し、生徒の実態に合わせた授業改善を絶えず行うことで、個に応じた指導を充実させる。	教務課	【努力指標】 各教科で指導と評価の一体化を実現するために、授業評価を参考に授業の改善・充実をはかる一連のサイクルを確立する。	指導と評価の一体化の趣旨を理解し、授業改善のサイクルを実践していると答える教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	教員によるアンケート(12月) 肯定的回答 96.1% 当てはまる 34.6% やや当てはまる 61.5% 【判定：A】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が3.0ポイント上昇した。今年度は、新課程4年目にあたり、学校全体の評価方法の見直しに着手したことにより、教科内での見直しが進んだ結果と考えられる。次年度は、学習評価法の改定を行うため、実態に即しているかを再度、見直しをすることでサイクルを回していく。
④生徒が授業以外で学ぶ習慣を身につけるために、ICT機器を活用して学校外で学習する予習・復習のための課題の提示や、定期テスト等と結びつけた計画的な学習指導を行う。	教務課	【成果指標】 放課後学習や自己実現のための学習を含めた授業以外の学習時間が最低限、確保されている。	平日の学習時間(授業以外)が1時間以上であると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	生徒によるアンケート(12月) 1時間以上 46.0% 【判定：D】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が25.8ポイント下降した。今年度より、数学科等を中心に授業以外の学習を習慣化することに取り組んできたが、十分な結果が得られなかった。次年度は、生徒一人ひとりの学習時間と成績の状況をより細かく分析するとともに、指標についても見直ししていく。
学校関係者評価委員の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・テストが近いと学習するので、「これをやったほうがいい」という課題を的確に提示すれば良い。 ・授業で出された課題は難しすぎるのではないかと。簡単な基礎的内容を毎日10分間積み重ねれば、慣れて学習習慣につながる。超えやすい課題を与えることも必要である。 			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、学習時間の少ない生徒は成績が悪いのかなど、相関関係を調べてみる必要がある。 			

【重点目標2】生徒が豊かな人間性や社会性を身につけるため、協働的な学びや地域と連携した探究活動を通してコミュニケーション力や課題発見力を育むとともに、挨拶や時間管理をはじめとした、より良い生活習慣の確立を促す。

具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策等
①協調性やコミュニケーション力を育むために、探究活動等において地域や外部の方々と積極的に関わる機会を充実させる。	教務課	【成果指標】 「総合的な探究の時間」が、コミュニケーション能力など社会で必要とされる資質・能力の育成に資するものとなっている。	「総合的な探究の時間」での活動を通して、協調性やコミュニケーション力が身についたと答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	生徒によるアンケート(12月) 肯定的回答 72.8% 当てはまる 29.7% やや当てはまる 43.1% 【判定：B】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が6.4ポイント下降した。本校の探究活動が、個人での探究テーマが中心であるにもかかわらず、肯定的回答が70%を超えている。これは、本生徒間で意見交換や探究内容を共有する場面を設けたり、外部講師の方々との活動も取り入れているためであると考えられる。一方で、少人数や限定的な他者とはコミュニケーションをとれるが、大多数の前では困難を感じている生徒が多い。次年度以降の課題として取り組んでいく。
②生徒自らが地域や保護者の方々とかかわる行事を通じて、主体性や社会性を身につけ、一人ひとりが充実感・達成感を得ることができるような生徒支援を行っていく。	生徒課 各学年	【満足度指標】 生徒が生徒会行事に主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができる。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	生徒によるアンケート(12月) 肯定的回答 82.2% 当てはまる 44.6% やや当てはまる 37.6% 【判定：A】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が3.6ポイント上昇した。判定の基準が昨年度と変わっているが、判定結果はCからAに向上した。意見箱や交流掲示板の設置及び紙飛行機選手権大会などの新しい取り組みを行うことにより、生徒の積極性につながったと考えられる。次年度も、生徒会が主体となり、生徒が学校行事や生徒会活動に積極的に参加したくなる方策を企画していく。
③教員一人ひとりが発達支持的な生徒指導の実践に取り組むことで、いじめ等の未然防止に努める。また、いじめの兆候を見逃さず、組織的な早期対応に努める。	生徒課 教育相談室	【成果指標】 生徒同士、あるいは教員と生徒との間の人間関係が好ましいものとなり、いじめ等の悩みやSOSを生徒が教員に届けやすい風通しの良さが生まれる。	本校には、悩みごとや困りごとを先生に相談しやすい雰囲気があると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	生徒によるアンケート(12月) 肯定的回答 78.2% 当てはまる 35.6% やや当てはまる 42.6% 【判定：C】	前期に比べ肯定的回答の割合が4.1ポイント上昇した。この背景には、9月から開始した「心の健康観察アンケート」の導入効果があると考えられる。アンケート内に「先生に相談したいことはないか」という項目を設定し、相談を希望する生徒に対しては早急に面談の機会を確保する体制を徹底した。次年度は、心の健康観察の結果も見ながら生徒一人ひとりに個別に対応し、より一層SOSを発信しやすい環境を整えていく。
④生徒の遅刻状況に関する情報を全教職員で共有し、個人及び学級・学年ごとの集団等にそれぞれ対応した指導を行い、時間や期限を守ることの大切さを自覚させる。また、保護者との連携を密にし、遅刻の減少を目指すことで規範意識を高める。	生徒課	【成果指標】 生活習慣が原因と考えられる遅刻を繰り返す生徒が減少する。	年間を通して遅刻5回以上の生徒の割合が A 15%未満である B 20%未満である C 25%未満である D 25%以上である	遅刻5回以上の生徒の割合が 22.3% (48人/215人) 1年生 13人/73人 2年生 20人/73人 3年生 15人/69人 【判定：C】	昨年度に比べ2.4ポイント増加した。指導対象となる遅刻総数は昨年度731件、今年669件となっておりやや減少している。次年度は、それぞれの生徒の事情の把握につとめ、生徒一人ひとりに応じた細やかな指導を行い、「生活習慣(遅刻)の改善」を促す指導を粘り強く行っていく。
学校関係者評価委員の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容が多岐にわたるので、相談したい内容を絞り込んではどうか。 ・相談室をよく利用する子どもたちは、コミュニケーションが苦手で、うまく伝えられない。相談内容は人間関係の問題ばかりで、大人が伝書鳩にならないと解決できない。 			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・相談室での相談について、深掘りし、相談しやすい雰囲気があるかどうかを調べてみる必要がある。 			

【重点目標3】保護者や地域から信頼される学校づくりを推進するとともに、生徒が切磋琢磨できる環境の維持・向上を図るため、学校の魅力や生徒の活躍を積極的に発信する。

具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策等
①探究学習や学校行事、芸術コースの活動等、本校の特色ある教育活動の様子を積極的かつ即時性をもってホームページに掲載、発信していく。	総務課	【努力指標】 全ての教員が、ホームページで複数回の情報発信を行っている。	担当する部署(課・学年等)や部活動におけるホームページの更新回数が、年3回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	教員によるアンケート(12月) 3回以上の更新 28.6% 5回以上 28.6% 3回・4回 0.0% 1回・2回 32.1% していない 39.3% 【判定：D】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が50ポイント以上低下した。(昨年度最終報告79.3%) また、判定がBからDに低下した。各部署のホームページの更新回数が減ったのではなく、担当者が決まっている、または、決まってしまうと思われる。更新そのものでも、写真などの資料の収集等に多くの職員が関わればよいのではないかと考えている。そのため、次年度は指標を見直していく。
②地域及び近隣の小・中学校、大学等との交流活動を通して本校の教育活動への理解と協力を促進する。また、その情報を各種の広報活動を通して発信していく。	総務課 各コース	【満足度指標】 地域との交流活動等について、その取組内容が保護者等にしっかりと伝わっている。	各種の交流活動等について、広報活動を通して学校の取組がよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	保護者によるアンケート(12月) 肯定的回答 83.1% 当てはまる 22.8% やや当てはまる 60.3% 【判定：B】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が3.4ポイント低下した(昨年度最終報告86.5%) が、中間報告時に比べ3.1ポイント上昇した。ホームページのレイアウト等を変更して見やすくなったこと及び諸活動の事後の掲載だけでなく、間行事予定を掲載するなど、事前の案内等を行うようにしたことにより上昇したと考えられる。次年度は、学年だよりの掲載、行事等の事前事後の案内等をこれまで以上にすることにより、本校の活動を保護者に伝えていく。
③中学校に対して丁寧な広報活動を行い、本校を志願する生徒を増やす。特に芸術コースについては、生徒が対外的なイベントに参加することで、コースの特色をアピールする。	管理職 総務課 芸術課	【成果指標】 様々な行事を通して、本校の魅力を中学生、保護者及び中学校教員に伝えることにより、志願する生徒数を増やす。	本校を志願する生徒数が A 80人以上である B 70人以上である C 70人未満である	本校を志願する生徒(3月) 確定志願者数 70人 (推薦入試等を含む) 普通コース 35人 芸術コース 35人 【判定：B】	昨年度に比べ本校を志願する生徒は推薦入試等を含めて2人減少した。(昨年度確定志願者数は72人、内普通コース47人、芸術コース25人)今年度、新たに「辰巳丘だより」を作成して地域及び中学校に配付したり、県内中学生の美術における表現力や創造力を育むアートグランプリを開催したりした。その結果、芸術コースの志願者数は増加したが、普通コースの志願者数は減少した。次年度は、今年度の活動を充実させながら、これまで以上に保護者及び中学校教員に本校の魅力を伝えていく。
学校関係者評価委員の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌(辰巳丘だより)を閲覧板で地域の人に見てもらうことは良い。年寄りにはホームページを見ない。また、写真が良い。文章は読まない。 ・生徒が公民館等で似顔絵を描くボランティアをやっていることや生徒が授業等でつくった作品など生徒の活動している様子等、もっと目に見える形になると良い。 			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた意見に基づき、さらに広報活動を推進していく。 			

【重点目標4】教育活動の効果をより一層高めるため、職場の心理的安全性の確保や業務の効率化等の取組を通して、学校や教員のウェルビーイングの向上に努める。

具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策等
①働き方を再考・工夫し、すべての職員が、生徒一人ひとりに丁寧に関わりながらも、学習指導・生徒指導などの業務に専念できる環境づくりをさらに進めていく。	管理職 各課・室 各学年	【満足度指標】 全職員が、働き方改善に向けた組織的な取組を肯定的に捉えている。	業務の平準化や部署間の連携により、働き方を改善する努力がなされていると答える教員が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	教員によるアンケート(12月) 肯定的回答 57.2% 当てはまる 14.3% やや当てはまる 42.9% 【判定：C】	昨年度に比べ肯定的回答の割合が1.4ポイント下降した。(昨年度最終報告は、58.6%) 次年度は、業務の平準化及び部署間の連携をさらに推進するために、校務分掌の再編を行い、すべての職員が、学習指導・生徒指導などの業務に専念できる環境づくりをさらに進めていく。
学校関係者評価委員の評価		・働き方改革は、なかなか難しい問題であり、中学校でも苦慮している。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善策		・次年度は、業務の平準化及び部署間の連携をさらに推進するために、校務分掌の再編を行う。			